

スーパーバイザー養成研修プログラムの評価と課題

—スーパーバイザーのニーズ把握を通して—

○久留米大学 片岡靖子 (3183), 野村豊子 (日本福祉大学大学院・4514)

岡田まり (立命館大学・1740), 潮谷恵美 (十文字学園女子大学・2079), 潮谷有二 (長崎純心大学・2675)

スーパーバイザー養成プログラム, スーパーバイザーのニーズ, フォーカス・グループ・インタビュー

1. 研究目的

わが国の社会福祉士の現任訓練の方法として、組織内外での多様な形式及び個々のスーパーバイザーの個性と力量に依拠して実施されてきた経緯がある。しかし、その機能や方法についての評価は一定しておらず、実証的な評価は十分ではない。

一方、社会福祉士のキャリアアップを支援する認定社会福祉士認証・認定機構が設立され、認定社会福祉士認定を受ける要件として、個人スーパービジョンを「受ける」「実施する」が単位化され、社会福祉士の現任訓練の方法として位置づけられた。しかし、スーパーバイザー（以下、バイザーと称す）のスーパーバイザー（以下、バイザーと称す）への依存、バイザー自身の自己評価の低下、バイザーの権威性や支配といった危険性も提示されており¹⁾²⁾、これらの課題克服が喫緊の課題である。

本研究は、前述の課題克服を意図して構築した、集合研修方式の個人スーパービジョンプログラムのバイザー養成を目的としたプログラムの実施と評価、バイザーのニーズを把握することを目的としている。

2. 研究の視点および方法

本研究の視点は、今後のバイザー養成プログラム開発上の課題とバイザーのニーズを明らかにすることにある。

研究の方法としては、2017（平成29）年3月26日に、本研修プログラム受講希望に応募した18名のバイザーを対象に、本プログラム受講前後にバイザーに自己評価シート（18項目、各項目を1～5段階）の記入を依頼し、統計的分析を行い、実施後、①「講義と演習における要改善点と改善方法」、②「バイザーのニーズ」をテーマに、3グループに編成したグループでFGIを実施した。FGI実施に際し、ICレコーダーに録音、およびメモを取り、逐語録に起こした。逐語録を繰り返し読み、意味のある部分（コード）を抜き出し、類似するコード同士をまとめ、比較し、より抽象度の高い概念になるサブカテゴリ、カテゴリの検討を進めた。さらに並行して、カテゴリ間の関係性を検討、カテゴリの統合を行い、コアカテゴリを作成した。

3. 倫理的配慮

本プログラムの受講、自己評価シートの記入、FGIの対象者には、本研究の意義、目的、方法、個人情報保護等について文書で提示及び口頭で説明し、同意を文書と口頭で得た上で実施した。なお、本研究については日本社会福祉学会倫理指針に沿って実施した。

4. 研究結果

(1)対象者の基本属性

対象者は、30～70歳代のバイザー（認定社会福祉士認証・認定機構のバイザー登録者）18名。属性としては、独立型8名、医療機関6名、児童分野2名、社会福祉協議会1名、司法分野1名であった。また、18名のうち、実際に個人スーパービジョンを行っているのは11名であった。

(2)自己評価シートによる効果測定

対象者18名(男性5名、女性13名)に、プログラム受講前後の自己評価シートを下に、対応のあるt検定を用い、有意水準5%とした結果、1項目以外は、全てにおいて有意差が認められた。

(3)「講義と演習における要改善点と改善方法」について

講義については、「理論の繰り返し学習の必要性」「スーパービジョン体験がより理論の理解を深化させる」など、演習についても「バイザーの陥りやすい場面への対応」「良い例、悪い例の対比で分かりやすい」など、プログラム全体の評価は高かった。一方、研修方式については、「バイザー、バイジー、観察者の経験」「スーパービジョン場面の観察」「安全性」などについて評価が高かったが、「チェックリストの活用方法」「時間の短さ」などの課題が提示された。

(4)「バイザーのニーズと状況」

大きくは、バイザー側の課題としては、「バイザーのフォローアップシステム」「スーパービジョン環境整備（場所、時間など）」「定期的な研修システム構築」の必要性などが提示されるとともに、バイジー側の課題として、「キャリアアップの動機付け」「スーパービジョンの意味の理解」などの必要性、「各県の社会福祉士会などによるシステム構築」「広報」など、システム上の課題も提示された。

5. 考察

社会福祉士の現任訓練の一つの方法としてスーパービジョンシステムの定着は重要であると考えられる。しかし、スーパービジョンの認識の不足、多様性、バイザーのフォローアップシステムの構築の必要性など、多くの課題整理が必要であることが明らかとなった。

引用文献

- 1)黒川昭登(1992)『スーパービジョンの理論と実際』岩崎学術出版社。
- 2)小山隆(2015)「ソーシャルワーク・スーパービジョンの倫理」一般社団法人日本社会福祉教育学校連盟監修『ソーシャルワーク・スーパービジョン論』中央法規。

謝辞

本研究にご協力頂いたバイザーの皆様には心より感謝致します。本研究は、科学研究費助成事業・基盤研究(B)（代表：岡田まり）「社会福祉士のスーパーバイザー養成プログラムの開発と評価」（平成27年度～平成30年度）の研究成果の一部である。